

一般社団法人全国建設請負業協会  
岡野裕美子



## Close-UP

現場の「主役」である技能労働者(職人)の減少が深刻化している。総務省の調査では、2021年度の技能者数は約309万人。ピーク時(1997年)の455万人から約150万人も減った。人手不足に加え高齢化も進み、ベテランの大量離職に備えた担い手確保が急務だ。こうした中、全国建設請負業協会(岡野裕美子会長)は、職人として働きたい人と、職人を募集している企業のマッチング事業を展開している。これまで企業側に紹介した人材はほとんどが業界未経験の20~30代だという。

なりたい人と雇いたい  
企業をつなぐ

通常、建設技能者の派遣やあっせん行為は労働者派遣法や職業安定法により禁じられている。全国建設請負業協会は、日本で数少ない「建設業務有料職業紹介事業許可」を取得している団体で、協会員企業に建設

## 全国建設請負業協会

# 若手技能者と企業を結ぶ

技能者の人材を紹介できる。「稼ぎたい、手に職をつけたい」という若者は少なくない。こうした人にとって職人は就職の選択肢に十分なり得る」と岡野会長は言う。しかし、どのように就職先を見つければよいか分からない、あるいは「30K」のイメージから躊躇(ちゅうちゅう)する若者も多いという。

一方の企業側では、自社ホームページに求人情報を載せる、高額な掲載料を払って求人サイトに会社情報

を掲載するといったプロモーションに励んでも、1件も応募がないこともよくあるという。

協会は、求職者と企業の意向を細やかに聞き取り、条件が合うと判断した人材を企業に紹介する。ミスマッスを防ぐため、応募者と一緒に企業の現場を訪問し、面接にも同行する。入社前のイメージと実際の勤務にギャップがないか、本人が納得し

て働けるかを判断してもらうためだ。就職後も、定期的に連絡や面談を行いケアする。

### 未経験でも活躍 担い手確保に貢献

協会の紹介で土木系の会社に就職した20代のAさんは「職人の世界は怖いイメージで、コミュニケーションが苦手な自分は不安だった」とし「入社後は研修もあり、優し

くサポートしてくれて安心した。頑張ったこの会社で働き続けたい」と話す。

同じく、未経験からとび職になったBさんは「稼ぎたい」と職人を志した。「仕事にも慣れ、就職から2カ月で月給が35万円から50万円以上にアップした。一生懸命働けば、報酬という形で成果が出るのは非常にやりがいがある」と語る。

企業側も、未経験者でも貴重な人材と歓迎し、育成と定着に努めている。

八王子市で基礎工事・外構工事を手掛ける名尾建設は、自社ホームページやハローワークを利用した採用活動を行っていたが成果が出ず、知り合いの紹介に頼ることが多かった。事業拡大に伴い、人員を増やすため協会に人材紹介を依頼し、採用につながった。「入社した人は会社に溶け込もうと一生懸命努力してくれている」という。

